

礼拝プログラム □主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 詩篇 119:103,105・・・御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
- *賛美 13番
- *交読文 8番
- *使徒信条 会衆一同
- *頌栄 9番
- 礼拝のための祈り 1部:渡辺和歌子 働き人 2部:小林美之 働き人
- 賛美 402番
- 聖餐式..... 281番
- メッセージ 天声とは(2ペテロ 1:16-21)
- 御言葉を適用する祈り .. 会衆一同
- 賛美 178番
- 献金感謝の祈り パスター
- 報告と歓迎
- *主の祈り 会衆一同
- *祝祷 パスター

祈祷課題

- ・この教会が神の御声を聞いて御心を行う教会となるように
- ・病、貧しさ、悲しみの内にある兄弟姉妹のために
- ・兄弟姉妹達がキリストの香りを豊かに世に放ち、仕事、事業が祝福されるように
- ・主に忠実で御霊に満ちた奉仕者が70名与えられるように
- ・終末の災いに実際に直面している兄弟姉妹の守りのために

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

わたしは___に御言を与えましたが、世は___を憎みました。わたしが世のものでないように、___も世のものではないからです。わたしがお願いするのは、___を世から取り去ることではなく、___を悪しき者から守って下さることです。わたしが世のものでないように、___も世のものではありません。真理によって___を聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。(ヨハネ 17:14-18)

あなたのみ言葉はいかに___のあごに／甘いことでしょう。蜜にまさって___の口に甘いのです。わたしはあなたのさとしによって知恵を得ました。それゆえ、わたしは偽りのすべての道を憎みます。あなたのみ言葉は___の足のともしび、___の道の光です。(詩篇 119:103-105)

天声キリスト教会設立のビジョンが与えられて15年目、この会堂での礼拝が始まって10年目、この教会にとって節目にあたる今年に入って以来、設立当初に与えられたビジョンについて見ているが、今回はこの教会の名前である「天声」とは、いかなる意味であるのか、について見ていきたい。

今までホームページに記して来た通り、天からの声とは、父なる神の御声、すなわち御言葉、それは「ことばは人となって私達の内に宿った」(ヨハネ 1:14)という、御言葉なるキリストであり、三位一体の主である。聖書には、天から声がした事の記事が幾つか示されているが、いずれの場合も、ある特別な人だけが聞くような、出処元の分からないものではなく、その声を聞いた誰もが「天」からのものとハッキリ分かる「神の声」であり、その内容はイエス・キリストこそ救い主であり、生ける神の御子である事を明示するものである。例えば、イエス様がバプテスマを受けられた場面では「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」(マタイ 3:17)と言っている。また、イエス様が弟子達の前で栄光の姿に変わった場面では、天の声は「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け」(同 17:4)と言っている。だから私達は、その天の声に従い、御言葉なるキリストに「そのまま聞く」教会として今日まで歩み続けているのだ。

聖書の時代、天の声は、その場で聞いた人の誰もが、出処元が神である事がハッキリ分かったが、現在、神の言葉は「聖書」として、誰もが手にする事が出来、信じる・信じないは別として、出処元が神である事は、誰もが聞いている所だ。では、その天の声である御言葉に対し、私達はどのように接するべきなのか。

第二ペテロの手紙で、ペテロはイエス様が栄光の姿になられた場面を述懐し(1:16-18)、この天の声により、預言の言葉は一層、確実なものになった、と言った。「夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめていよう。聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。」と言っている。(同 19-20)

私達は、聖書のことばは、分からない事だらけだ。もし聖書は全部分かる、などと言う人がいれば、ちょっと疑ったほうが良い。聖書の言葉は霊の書物であり、わからない人には、とことん分からない。

使徒パウロが、主からの召命を受ける場面では、パウロは、天からの声の内容は明確に理解できたのに、同行していた人達は、「声(フォネー：ノイズとも訳せる)」は聞こえても内容は理解できなかった。(使徒 9:7)福音も聖書の言葉も、ある人にとっては救いをもたらす神の力だが、ある人にはノイズに過ぎないのだ。では、その分からない聖書と、どう付き合えば良いのだろうか。どうすれば「わかる」のだろうか。まず、聖書の言葉が分からない時に、「してはならない事」は、「自分勝手に解釈」する事だ。聖書の言葉は「心の中を照す」ものであり、その時まで「目を留めている」事が、御言葉への正しい作法である。(2ペテロ 1:19)

御言葉が心を照らす時、不安だった心に、決して揺るがない平安が与えられ、心配だった将来に希望がもたらされる。例えば、聖書の「恐れるな」という言葉を聞いてもなお恐れがあるなら、光は照らされていない状態であり、その言葉を受けて、恐れが消えた、というなら、光が照らした、という事だ。

これは人の理屈や、たくみに考え出されたものでもない。ただ上から与えられ、照らされたもの、すなわち、聖霊によって運ばれて来たものである。『なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に「感じ(φερομενοι: 運ばれ、担がれ)、神によって語ったものだからである。』(21節)つまり預言は、人の解釈や人の定めた一定法則に拠ってはならず、聖霊の促しによって読み解くものだ」と書いてある。

では聖霊とは何だろう。それは、イエスを証し(ヨハネ 15:26)、イエスを栄光化する霊である。(同 16:14) 霊の声を聞いて啓示を受けた、と言う人がいる場合、その霊をためすと良い。人となって来たイエス・キリストを告白する霊は神からのものであるが、イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではなく、それこそ反キリストの霊である(1ヨハネ 4:1-3)。預言の霊は、イエスのあかしである。(黙示録 19:10)

御言葉を聞く時、旧約も、新約も、私達を救う主・イエス・キリスト、この御方を中心に据えて読む時、分からないものが見えて来る。律法も預言書も、全てイエスについて書かれてあるからだ。(ルカ 24:25-44) だから、この天声キリスト教会は、ホームページも、礼拝も、どこを切っても、御言葉とイエス様しか出てこないのであり、人間的ビジョンは一切見出だせないのだ。この天の声すなわち父なる神の御声、御言葉なるキリスト、聖霊によって導かれ歩み続ける皆さんでありますように！イエス様の名前によって祝福します！

横浜天声キリスト教会

礼拝 週報



集会案内

各礼拝はインターネットでライブ中継しております → [youtube.com/c/横浜天声キリスト教会](https://www.youtube.com/c/横浜天声キリスト教会)

日曜礼拝

1部礼拝 10:30 賛美 11:00 礼拝
食事/フェローシップ 12:00～
2部礼拝(韓国語通訳有) 14:00

金曜徹夜祈祷会 21:00～

日々の集会

月～金 早天祈祷会 5:00～
火・木・金 賛美と祈りの集会 13:00～
火～木 夜の祈祷会 19:30～

水曜集会

1部 13:00～
2部 19:30～

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
6番B出口を出てまっすぐ徒歩5分
JR・関内駅より徒歩10分
京急線・日ノ出町駅より徒歩10分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
1Fがファミリーマートになっております。



聖書メッセージを携帯で
聖書メッセージをメールで
毎日携帯にお届けします。
左記コードを読み込み、
空メールを送信するだけ！



〒231-0058

パスター: 林和也

神奈川県横浜市中区弥生町2-17 ストックタワー大通公園 I-201

TEL/FAX: 045-326-6211

Homepage: <http://voh.plala.jp/>

email: ephes_03-tensei@yahoo.co.jp



YouTube